

第5期基本構想・長期計画策定委員会 傍聴者意見

提出日 平成22年10月29日

氏名

住所 武蔵野市中町

意見：

市民委員でございましたので、28日の第3回策定委員会での資料7「市民会議報告書」に関連した点を中心に、私の理解を述べさせていただきます。

今次の市民会議の性格として、報告書の「Ⅱ. 武蔵野市の将来についての視点」に反映されている個別課題に関しては、「議論」をするということよりも、各自の見解の開陳に重きを置いた面があります。バックグラウンドも基礎知識も千差万別の市民10人が、個別の課題について限られた時間で方向付けを行うのは現実的でなく、また危険でもありました。そのため、会議の早期の段階で、「委員間で意見の集約は行わず、対立する意見があればそれは両論併記する」との方針をコンセンサスとなりました。

例えば自転車問題など、大きな課題であることは委員間でも共通認識ですが、その解決策等については個々人で意見が異なり、市としての進むべき方向感をだすのは、今次市民会議ではなく、多くの専門家・市民による集中的な検討によることが望ましいと思われるなか、市民会議としては、さまざまな視点の提示にとどめている面があります。

一方、各委員の様々な意見表明を通じ、基調に流れる問題意識、市政の理想像については、自ずと10名の間で共通認識が浮かびあがってきました。この部分を取りまとめているのが、報告書の「Ⅲ. 目指すべき武蔵野市のあり方」の部分です。市民が行政に望む市のビジョン・行動規範が述べられているとともに、市民自らが、将来に向けての決意表明をしている要素もありますが、ある種「基本構想」的な内容と存じます。今後10年の武蔵野市の進むべき方向性についての共通認識と言えると思います。

さて、本日の策定会議で、資料3・4の個別計画等についてのご意見が出ておりました。市民会議で議論していても疑問に思いましたのは、各種委員会等で策定した計画・プランを十分に有効活用出来ているのだろうかということです。個別の課題について、せっかく専門家・市民が多数参加し、課題別・関係者のヒヤリングも十二分に時間をかけて実施して到達した結論については、議論でなく実行と検証が重要と思われました。もちろん、よほどの環境変化があれば短期間で計画を見直す場合もあるでしょうが、基本としては、しっかりと計画を実施・検証していく仕組みが重要だと思われれます。第五期長期計画は、かかる観点も反映された計画になることを期待しております。

以上